

さとうさんち

【キーワード】

〔施設種別〕 高齢者施設 障がい者施設 子ども施設 住宅 ()
〔運営主体〕 市区町村 法人 NPO 個人 (補助金) 内閣府 国土交通省 厚生労働省 ()
〔建物形式〕 1 棟単体型 複数棟集合型 団地型 (建物状況) 新築 増築 改修 一部改修 既存
〔対象者〕 高齢者 障がい者 子ども ファミリー 多世代



写真1. 正面写真

郊外の住宅地で「住み開き」を行っている事例。既存の住宅の1階部分を住み開きし、2階部分を仕事場としている。住み開きされているスペースでは、運営者主催のご飯会や、貸し出しで行うワークショップなどの様々なイベントが開催されている。震災を契機に始まった地域活動のため、地域の防災力を強める活動にも力を入れている。

■施設概要

所在地 : 埼玉県さいたま市南区鹿手袋 5-17-24施設
種別: 戸建て住宅(賃貸物件)
運営主体: 個人
開設年 : 2016年10月

■事業の経緯

東日本大震災当時、この地域に住んでいた運営者は、地域に知り合いがいないという状況の中震災を経験した。地域での居場所が無く、知り合いがいないということに危機感を感じ、それを契機に地域サロンを始めるようになった。地域サロンは2015年頃から月に1回ペースで地域会館で行っていた。

運営者はその活動を続けるなかで自分でも使える活動拠点を持ちたいと思い、物件を探していた。自分の仕事ができ、地域に開放できるフリースペースがある住宅を探していたところ、自治会の人に物件を紹介してもらうことで、今のさとうさんちの場所を確保した。

■利用者について

開いてから1年目は週3回で開放していた。現在は月3～4回のペースで開かれている。1回のイベントで約10～20人、年末に開催される忘年会では1日に40～50人が利用する。今後は、30代を地域活動に巻き込んでいくことを目指している。



図1. 周辺地図

駅から徒歩10分の場所にある。隣の倉庫では運営者が主催のフリーマーケットが年1回で開かれる。



写真2. 住み開きされている部屋の写真
和室で落ち着いた雰囲気の部屋。
ここでイベントが行われる。

■イベントについて

運営者はさとうさんちを運営する以前から地域サロンやフリーマーケットなどのイベント活動していた。

さとうさんちでは、運営者が主催するご飯会やランチ会、貸し出しで行われるワークショップなどが行われる。また、震災を契機に始まった活動でもあることから、地域の防災力を高めるために、防災を絡めたイベントなども行っている。大きめの庭があることから、草むしりなどの手入れが必要になってくるが、草むしりや庭造りも地域交流のイベントとして開催される。

■しつらえについて

既存の住宅を借りて開催されているため、設計段階では特に配慮はしていない。住戸内は段差が多いことや収納が高い位置にあることなど、使いづらい部分はある。しかし、持ち込んだアイランドキッチンに棚をつくったり、おしゃれなインテリアを配置したりするなど、賃貸物件でもできる工夫を施すことで、住戸内には魅力的な空間が広がっている。

外装については既存の備品を用いてチラシなどを置いたり、その日の活動が分かりやすいように看板を出したりしている。庭は先述した通り、地域住民と一緒に草むしりをしたり、芝生タイルをつけたりすることで庭造りを行っている。

■運営について

運営理念で一番大事にしていることは、「自分が楽しいと思えることをする」である。自分が楽しいと思うことをやり、そこに地域住民を巻き込んでいくことで、コミュニティが醸成されていっている。

スタッフが家主1人しかいないことから、地域の人が来た時に飲み物を提供したりすることが大変である。また、他のスタッフがいなかったため、自分がいる時しか開けられないことから開催頻度が少なくなってしまう課題もある。しかし定期的に活動を行ってきたことで、運営者は地域に友達や知り合いができたと言っている。



写真3. イベントの看板
イベントが開かれるときは外に設置する。
写真は避難所運営ゲームイベントのもの



写真4. 取り付けけた棚の写真
持ち込んだアイランドキッチンに取り付けけた棚。
オリジナルブレンドコーヒーを淹れるため、おしゃれな道具がそろっている。



写真5. 庭の風景
四角い芝生のタイルは、庭造りイベントで地域のタイル職人が取り付けけたもの。庭には土のうにもなる防災プランターもある。